

クリスマス キャンドルを作ろう

〔対象：全学年共通〕

★ねらい クリスマスを迎えるころに、パラフィンを溶かして自作のろうそく作りを行わせる中で、形や色、模様などを工夫させることにより、季節に応じてものを作る楽しさを味わわせる。

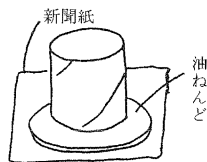
1. 型を作る

〔準備物〕

- ・トイレットペーパーのしん（工作用紙、プリンカップでもよい。） ・新聞紙1日分
- ・缶づめの空缶（ろうの入れ物にするので洗っておく。）
- ・油ねんど ・竹ひご（つまようじ）

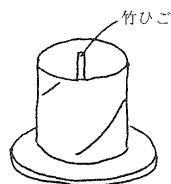
(1) ろうを入れる型を作る。

- ①机に新聞紙を広げて、平らにした油ねんどをおく。
- ②ろうそくの型（トイレットペーパーのしん）を油ねんどに深くさす。
- ③さし込みが不十分だと、ろうが流れ出てくるのでしっかりさし込む。



(2) 型の油ねんどの中心に、竹ひごをさす。

- この竹ひごの所はろうソクのしんの穴になる。
- 型の中心に、竹ひごがささるように、また、竹ひごが真っすぐに立つようにする。



2. ろうをとかして色をつける。

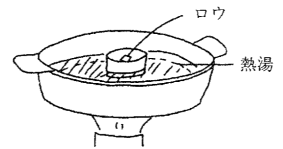
〔準備物〕

- ・なべ（アルミでできた使いすてのもの）
- ・三脚・金網・バーナー（家でするときにはガスレンジを弱火にして使う。）

- ・パラフィン（100g）（ろうソク7～8本でもよい。） ・クレヨン ・カッター

(1) 空缶にパラフィン（ろうそく）を入れてとくす
○ろうをとかすときは、空缶ごとに熱湯につけてとくす。

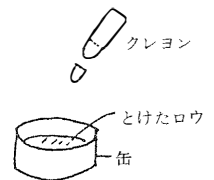
○ろうは約60℃でとけてくる。ろうの入った空缶も熱くなるので、ぞうきんやタオルなどを使って空缶を持つ。



(2) とけたろうに好きな色のクレヨンを入れてとくす。

○クレヨンは小指の先くらいの量をめやすにし、入れすぎないようにする。

○クレヨンが濃すぎると、炎が小さくなりやすいので、色を見ながら少しずつとくす。



3. しんを作る

〔準備物〕

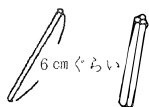
- ・たこ糸 ・はさみ ・ピンセット（わりばし）

(1) たこ糸を6cmくらいの長さに切る。

(2) とけたろうにたこ糸をひたし、ピンセット（わりばし）で取り出して、真っすぐに伸ばしておく。

○ろうがさめるとすぐかたくなるので、手早く取り出す。

- これがろうそくのしんになる。
- しんが細いと、炎が小さくなるので、しんになるたこ糸を2、3本いっしょにろうでまとめてつけておく。



4. ろうそくを作る

- (1)とかして色づけをしたら、ろうを型に流し込む。
- (2)ろうが■まったら、型をはずし、竹ひごを抜き取る。
- (3)竹ひごを抜き取った穴にしんを入れる。



5. おもしろいろうそくを作る

- (1)しま模様のろうそく
 - ウを固めるとき、何回かに分けて違った色のろうを流し込むと、しま模様のろうそくができる。
- (2)プリンろうそく
 - プリンカップにろうを流し込む。
 - プリンカップは熱で変形することがあるので、水に浮かべて作るとよい。
 - 固まり始めたら、真ん中につまようじをさし、しんの穴を作る。

7. 資 料

ろうそくの歴史

ろうそくは昔から日本にあり、灯りとして使われてきました。特に、昔はクジラの油からとった鯨蠟(げいろう)や蜜からとった(みつろう)を使っていました。

今では、石油からパラフィンを取り、これをろうそくの原料としています。

また、パラフィンから作られるものには、クレヨンなどもあります。

ろうそくが燃えること

ろうそくが燃えるというと、ろうそくのしんが燃えているのだとかんちがいする人が多いですが、本当はろうそくのろうがとけて気体になって、その気体が燃えているのです。

ろうそくが燃えるしくみは下の■のようになっています。

